

技術情報

各関係機関団体の長  
各病虫害防除員  
農業資材販売等関係者 } 殿

福岡県病虫害防除所長

水稻害虫（トビイロウンカ、斑点米カメムシ類）の発生状況と防除対策について

本年は、トビイロウンカの発生量が少なく、今後も少ないと予想されます。一方、斑点米カメムシ類の発生が多く、早期水稻は7月2日付で、普通期水稻は7月31日付で注意報を公表しているところです。このことから、本年は多発が予想される斑点米カメムシ類を主体とした防除指導を願います。なお、発生状況についてはほ場間差があるので、ほ場の見回りを徹底するよう指導願います。

1 トビイロウンカ

(1) 発生状況

ア 8月5半旬における定期調査の結果、10株当たり払い落とし成幼虫数は0.03頭( 平年1.5頭、前年1.8頭)と平年及び前年より少なく、発生ほ場率も5.4%( 平年39.5%、前年71.7%)と平年及び前年より低かった。なお、特別巡回調査( 定点の隣接ほ場56地点)においても、10株当たり払い落とし成幼虫数は0.02頭と少なかった。

(2) 今後の防除対策

ア 本種の発生量が少ないことから、本年は多発が予想される斑点米カメムシ類を主体とした防除を実施する。

イ 本種は増殖率が高いため、飛来量が少なくても秋には高密度となって坪枯れを起こす可能性がある。このことから、それぞれのほ場の発生状況を必ず確認し、要防除水準( 8月下旬 100株当たり100頭)を超えているほ場は薬剤防除を実施する。

2 斑点米カメムシ類

(1) 発生状況

ア 県内5地点の予察灯における8月1～4半旬のミナミアオカメムシの合計誘殺虫数は、60頭( 過去5か年平均 8頭、前年 30頭)で、過去5か年平均より多かった。

イ 8月5半旬における定期調査( 出穂後水稻及び雑草地の片振り20回すくい取り)の結果、発生量は平年並であった。

クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、シラホシカメムシ類

本田 0.8 頭( 平年 0.8頭、前年 0.6頭)

雑草地 12.4 頭( 平年13.9頭、前年 8.4頭)

カスミカメムシ類

本田 0.6頭( 平年 0.6頭、前年 0.3頭)

雑草地 7.6頭( 平年 28.1頭、前年10.0頭)

ミナミアオカメムシ

本田 0.2頭( 過去5か年平均 0.1 頭、前年 0.4 頭)

雑草地 0 頭( 過去5か年平均 0.02頭、前年 0.02頭)

(2) 今後の防除対策

- ア 防除適期は穂揃期及びその7～10日後である。カメムシ類は広範囲に移動するので広域一斉防除を実施する。
- イ 防除が実施されたほ場においても、カメムシ類の再飛来には十分注意し、穂揃期散布後の見取り調査でクモヘリカメムシとホソハリカメムシの合計虫数が100株当たり2～4頭を超える場合は補正防除を行う。
- ウ ミナミアオカメムシに対しては、シラフルオフエン剤の防除効果が低いので、効果の高いクロチアニジン剤又はジノテフラン剤を使用する。
- エ 農薬の使用に当たっては、農薬の使用基準（収穫前日数等）を厳守し、飛散防止に努める。

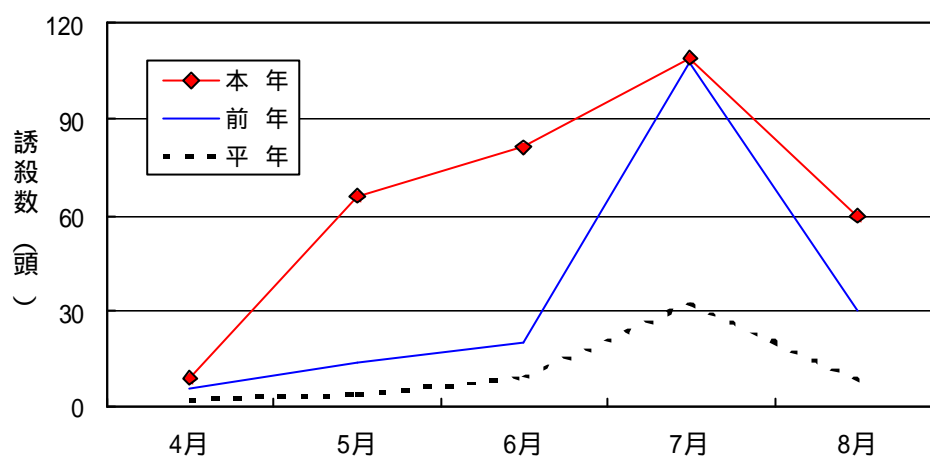


図 予察灯におけるミナミアオカメムシの月別誘殺状況  
(8月は4半旬までの合計)

